

令和元年度第3回香南市総合教育会議

1. 開催日時 令和2年 2月 19日(木) 午前9時30分～

2. 開催場所 大峰の里 1階 健診室

3. 議題

- (1) 香南市学校等の規模適正化等検討委員会の審議内容について
- (2) 2020東京オリンピック・パラリンピック関連事業について
- (3) 教育支援センターの現状について
- (4) その他

4. 出席委員

教育委員	清藤 好弘
教育委員	百田 久範
教育委員	山本 美和
教育委員	中元 啓恵
教育長	入野 博
香南市長	清藤 真司

5. 説明のため出席した者の職指名

教育次長	山下 篤
学校教育課長	山本 昌伸
学校教育課指導監	細川 健次
学校教育課長補佐	門脇 佐代子
生涯学習課長補佐	国松 士晃
こども課長	前川 浩文
こども課長補佐	原 司
にこなん所長	高橋 公子

6. 事務局職員の職氏名

総務課長	北村 浩司
総務課係長	伊藤 正和

7. 傍聴者 0名

8. 議事の経過の概要

次のとおり

○北村総務課長

それでは若干時間は早いですが揃い終わりましたのでただいまから令和元年度第3回香南市総合教育会議を始めさせていただきます。会議に入ります前に市長の方からご挨拶を。

○清藤市長

皆さんおはようございます。今年に入って最初の総合教育会議でございます。また年度末ということでまた色々学校行事等多くなってくる頃だと思えます。職員の皆様におかれましても色々出る機会も多くなりますが、またよろしく願います。お手元に式次第がございます。それに沿って会議を進めていくということでございます。今日もまた闊達な協議をしていただけたらと思えますのでどうぞよろしく願います。

○北村総務課長

ありがとうございます。それでは議事に入りたいと思えます。個別の議事が3つ、その他が1つとなっております。まず最初にこども課・学校教育課、教育次長の方から香南市学校等の規模適正化等審議委員会地域についての説明をお願いします。

○山下教育次長

資料のほうですけれども香南市学校等規模適正化等についてというものです。昨日第15回の規模適正化検討委員会が開かれまして、そこで答申案が固まったという状況ですので、その内容についてご説明させていただきます。1ページ目に“はじめに”と“香南市の保幼小中学校の現状”となっております。これが、検討委員会が立ち上がりまして29年10月の状況を記載しておりまして、その10月の状況をもとに検討をしていただいたということです。子供の命を守るという視点と適正規模によって効果を高めていくということに重点を置いて検討がされました。

めくっていただいて2ページ目のほうに児童・生徒数とカッコ3番としまして学校規模ということで状況としましては、大規模校、19学級以上が野市小学校、適正規模が佐古小と野市中学校、小規模が夜須小、香我美小、赤岡小学校、野市東小、香我美中学校。過小規模ということで岸本小学校は統合しておりますが、吉川小学校と夜須中学校、赤岡中学校が過小規模となっております。4番が通学路状況で、2としまして学校規模と学校教育への影響ということでそれぞれ小学校・中学校ということで規模と学校教育ということで記載しております。

4ページ目、自然災害と安全対策ということで南海トラフ巨大地震における津波以外に近年全国的に集中豪雨による大規模な災害が発生しておりますので集中豪雨についても記載しております。また一覧表としまして津波浸水予測地域にある学校等の状況で最大深度・最大浸水地域・30cm津波の到達時間について記載をしています。で、4番として適正規模等を考える視点ということで教育効果が上がるという視点に立って規模等について検討を行ったと記載しています。

5番目、先進地の取り組みとしまして、検討委員会として福岡県の宮若市と佐賀県の多久市に先進地視察を行っております。委員長のほうが、高知工科大のナカムラ教授ですけれども、委員長が東北の宮城県石巻市と東松島市へ視察のほうを行っております。九州のほう、福岡県・佐賀県のほうは教育効果を高めるという視点で、東北のほうは東日本大震災を教訓とした取り組みというような視点で視察を行っております。

6 ページ目としまして、検討委員会の検討結果、答申ということで（１）番としまして規模・配置、通学区域等の基本的な規模に関することとしまして新設する場合は、南海巨大地震の L2 の津波を想定した浸水予測区域外に設置をする、統廃合が必要な場合については上記の原則を重視するとなっています。また学校は地域コミュニティの拠点であることから地域とともにある学校づくりの視点やコミュニティスクールの考え方を踏まえて保護者や地域住民に説明を行い、理解と協力を得ながら進める必要があるとしています。

また統合する場合につきましては既存の施設を原則活用することとしていますが、新しい学校を設置するという考えのもと施設を新たにすると。

あと香南市は保幼小中教育を推進しておりますが、保育所・幼稚園につきましては自力での避難が困難なことから優先的に高台移転を検討する、施設整備が必要な場合については認定こども園化を検討するとなっています。（２）番、規模の適正化に関するものということで、学校規模の適正化については小中学校とも１クラス２０人以上で、１学年２クラス以上となることを目指す。

２０２３年度の児童生徒数推計から小学校では４～５校、中学校では２校ということで、事務的要因等を考慮しながら考慮するとなっています。

保育所幼稚園におきましては、集団生活が本格化し、特に集団活動が重要となる４～５歳児については２０人１クラス、２０人以上となることを目指すとしています。

（３）番で配置の適正化に関することということで基本的な事項に関することと重なっておりますが、統合する学校については L2 津波で想定された津波浸水予測区域外に設置することと地震や豪雨等で自然災害が発生した場合であっても施設等の被害を受けずに早期に教育が再開できる適地を検討する。適正化により校区の変更をしても地域や学校とのつながりを保つこと、さらにつながりを発展することに十分配慮することが必要であると。

（４）番としまして通学区域の適正化および弾力化に関することで通学区域の基準は、小学校はおおむね４ km 以内、中学校は６ km 以内、通学時間がおおむね１時間以内として通学路の整備や安全に特に配慮するとしています。通学区域が変わった校区、現行の基準にこだわらず、地形・交通および南海トラフ巨大地震による津波と学校の関係や児童・生徒の負担等を考慮し、弾力的にスクールバスの運行を検討する。また保育所等で保護者が園児の送り迎えをするということが原則なっておりますけれどもその手段としまして自家用車で行くことができない場合を考慮して通所バスの運行等を検討するとしています。

（５）番としてその他、教育委員会が必要と認める事項として子供の命を守るため津波浸水予測区域に設置されている学校等についてはおおむね３年以内に津波浸水予測区域外への学校再考を進めることが望ましいとなっています。

あと学校等規模適正化には一定の期間を要するというのでその間の津波防災対策、特に津波対策について学校防災マニュアル等により安全対策に万全を期すること、きめ細かい学校防災マニュアル等を作成し、どういう状況になっても子供の命を守れるようにシステム化する必要がある。学校等の規模適正化を進めるにあたっての手順や手法、時期等について施設整備をはじめまちづくり戦略の一環として魅力ある学校づくりを進める必要があることから総合教育会議等において教育委員会と委員長との連携のもとに進めることという答申案が示されております。説明は以上です。

○北村総務課長

それでは質疑・ご意見等ございますでしょうか。

○清藤市長

適正化検討委員会のほうで協議を議論していただいていたと思うんですが、発足前に言っていたんですけども、結論から言うと香南市は色んな人口動態というか変化もあり、学校によっては非常に子供の数が多いたるところとかそうでないところとか、中学校に関しては70%弱が野市中で、あとが3つの中学校であると。クラブ活動とか色んなことでも色んな問題があったりする中で、じゃあ具体的にどういうことができるのかという風なことを協議して、踏み込んで考えていただけたらなというのが終始一貫私のほうとしての話でした。ですからそれがより具体的にならないような方向にいったらいかんのでそこをずっとお話をしたという経緯がございまして。そこでのこの答申となった時に例えば6ページの6、香南市学校規模適正化等の検討結果（1）とあってこのマルが8つほどありますが、例えば下から2つ目、小規模等学校を統合して1つの学校を設置する考え方だけでなく香南市全体の校区等見直しの検討を行う、これが検討委員会の検討の場だと理解をしていました。ところがこれ答申にこう出ていますよね。

それと8ページ、(5)その他教育委員会が必要と認める事項というのがあるんですよね。このマルの2番目、規模配置等の適正化は保護者や地域等関係者との十分な協議が必要であることや回収等にもともなう財政的な側面を考慮しながら全体的な計画を立てることが先決であり、具体的な年次計画等早急に策定して進めること、こういう事をするのが検討委員会の内容だという風に私は理解しています。その次のマルもそうです。

それと9ページのマル、学校等の規模適正化を進めるにあたっての手順や手法・時期等については施設整備はじめまちづくり整備の一環として学校づくりを進める必要があることから総合教育会議等において教育会議と市長との緊密な連携のもとで進める、こういう風にしていくと。だから学校教育関係だけでなくまちづくりや総合戦略という所の課も一緒になってしていかなければならないという事をずっと話をしていたので。だから自分としたらそういうことを協議するのが検討化委員会という理解だったので。そういうことを留意して今後考えてくださいという答申をもらうというものではないと。それはもう分かっていることであるから。だからそこが戸惑っていますけど。そこはどうなんでしょう。

○山下教育次長

そこは検討委員会の中でですね、具体的な例えば学校再建の案とかいう部分についての話とかも上がってはあったんですけども、そのへんはやはり検討委員会として明確に出すのは難しいというような意見が出ましてですね。答申としてはこのような全体的な話の形が望ましいというような意見となりました。

○清藤市長（

こういう形で出たので、これはこれでいいと思うんですけども。ただこういう事があるから規模とか配置の適正化にはどういった形が望ましいのか、それを学校がどうこう限定することではなくてですね。どういう風なのが望ましくてとか1のケース、2のケース、3のケースですとかいう風なことを、これを出ていることは言ったら分かっていること。こういうことがあるからということだったですよ。現に香我美小学校と岸本小学校が統合したと。色々ありました。そういうことで色々あったことに対してのひとつの実践もした中でプラスもありマイナスもあり評価もあり、そうでな

いこともありましたし、そういうこともひとつ経験則として十分にものにしたところもあると思うので。その地震で津波がどうこうもあったけどもこれは検討委員会で長らく検討しなくてもある意味、今の行政の考えというのであれば、津波の来るところに建てるか建てないかであればそれはもう常識の範疇の中のことだから。というのがちょっとあったので。率直な感想。私だけがガーガー言うてもいかんけどもやね。じゃあそれを受けて

本原則はこうであると。これを受けて今後どんな形でやっていくかという考えでいかなければならないと思うんですけど。ちょっとそこはもうこういう風にならんように、ならんようにやっていますが、こうせないかんですよという事をずっと言い続けてこうなった、というところがある。率直な意見ですが。

○入野教育長

次長さんこれを受けてですよね、今後の具体の市の歩みを。この前スケジュールで言いよったみたいに。

○山下教育次長

この答申を受けて教育委員会としてですね、学校再編の具体的な計画の学校再編計画、整備計画というのを来年度以降つくっていくということになります。その時点では具体の学校というのを想定してケース1、ケース2というような。

○清藤市長

そしたらこれはこれで今日の説明でいいですけど。教育委員会とセットで。これと今後のスケジュールというように。これに沿った、これが基本的な、原則的な考えのもとでということ。これに沿って次はこの具体はどう考えていくかという、そのスケジュールと具体をどうしていくかという手法というのかね、そういうのは一緒に今後はしていったらいいと思います。

それとこれもうひとつ、いろんなところを出して今まで言っただけから、議会等の注目もあると思うんで。最後のほうについている資料、18年度と29年度の児童生徒数、これ29年度もうちょっと新しくしたほうがいいと思う。18、29と今後またつけるというか、31とかにしておかないと。例えば実数と違うところがあるから。香我美中学校とか18から29は増えてますけど今はそうじゃないから。増減とか間違ったらいいかんので。

○山下教育次長

今の最新のデータに基づく推計としては参考資料という形で一応最後のページに載せてますけども、こういった形で別紙1、2、3は29年10月のもとの資料ということで、参考資料という形でつけていきたいと考えております。

○北村総務課長

ほかにございますでしょうか。

○百田委員

たぶん年に10回くらい会合していただいて、地域支援課・防対・企画といった中での適正規模の改革ということですが、今具体的に規模適正化に向いている、夜須の方にかんしてはどのような動きがあるんですか。動きゆはずですけども保育幼稚。命を守るという動きで。

○山下教育次長

今夜須の保育所幼稚園というのは命を守るということで、また夜須のほうで逃げる場所というのがなかなか難しいというような状況で。規模適正化の検討を待たずに緊急性が高いということで高台移転ということで認定こども園ということで成立する様に動いています。具体的にはまだ、今年度こうして来年度こうするという

○百田委員

具体的にはまだ、今年度こうして来年度こうするというようには進んでない？

○山下教育次長

進んでいます。

○前川こども課長（0“25”43）

夜須の行間団地の北側の土地を候補地として、地権者の用地測量が完了しまして、不動産鑑定も完了しています。土地ごとの単価を出しております。来年度予算に用地買収費を計上しております。予算が通りしだい用地交渉を進めてまいります。令和2年度につきましては造成工事の設計委託、令和3年度に建築設計、令和4年度に建物を工事にかかって、令和5年度には開所する予定となっております。

○百田委員

ありがとうございます。もう規模適正化、香南市一緒になって考えるということの中で夜須はもうあそこへ計画しておるということで保育幼稚、入学前の子供たちはあそこということでの他の地域は別個に考えていくということになりますか。香南市全体で人数的なもの、1クラス20人以上の中で考えるとして答申いただいているというので夜須の就学前の子供たちは別個として考えておるということになりますか。

○入野教育長

現状で言ったら夜須はここへ急いでということですからそういうことをやらざるをえないという状況ですね。この検討委員会の中でも教育の質を充実させるために適正な規模に市内全体でというのがひとつの大きな視点ですけども、ただ防災の視点はどうしても外せないということで委員さんからも自分が参加をした会の中でも常に、視察にいった中でも呑気に考えよったらいかんよという意見はいただきました。この計画に基づいて今後具体のプランをいくつか、検討委員会の中でも出ているんですけども、それに基づいて具体を煮詰めていかなければいけないんですけども。それについてもあんまり時間をもってやりよったら、5年先、6年先、7年先といたら間に合わなくなってくる。結局後から災害が起きて、後から色々やるのは大変だと。できるだけ急いでやる必要がある

というのは委員さんからも意見をいただいています。今特に夜須の地域は他の地域と比べて避難訓練をやっていますが自力でなかなか逃げにくい。子供たちについてある程度早い手を打っておかなければいけないだろうというのがひとつの視点ですね。

その他の地域については教育の内容が充実できるような一定の規模がないと、部活の事なんかもあがりますが、小学校においても一定の規模の子供がいないと多様な人間の関わりが設定できなかったりですとか、集団の中での練り合いですよね、小規模の中では質の高い授業ができにくいという状況がありますので、そういうことを含めた形で一定の適正規模がどうあるか。その中でもそれだけに視点を置きますと、防災の視点で例えば学校だけが安全な地域にあったとしても途中の通学路が川ふちだとか危険地帯を通るようなことになったらその時点で危ない。そんなことも含めた具体で煮詰めていかなければならないとかそんな意見が出ていました。

○百田委員

また総合的に判断、地域のコミュニティとして、特に今、吉川の保育所・小学校、赤岡の保育所が浸水地域に入っていると。浸水地域に指定されてますので。まあ全体として考えなければいけないと思いますけど、コミュニティとしての共有も必要になると思うけども、遅かったねと言われなような対策をお願いします。

○入野教育長

赤岡、吉川についても近くに避難タワーがありますけども、それでもやはり絶対安全とはいえませんので、そんなことも含めて早急に対応をしないといけないと思います。

○百田委員

前回も言ったかもしれないですけど、その命を守るということで夜須もあの山の上に行くんだっただんですかね。そっからじゃあどこへどう行くのよという計画をしているのか、吉川・岸本は避難タワーへはとりあえず行けど。その後どうするのかどういう風な動きをするのか、そういうのは防対になるかもしれんですけど、そこまではないですよ。子供もふくめ、住民もふくめ。

○清藤市長

防災対策ということで言うと、命を守るというか繋ぐ施策があって、避難タワーというのは命を守る施策ですから、その後繋ぐというところで準備万端100%というのは現時点ではまだです。今後取り組んでいくということになります。ただ、いくつか課題があるんですけど。こんなことがありました。津波避難タワーに上がると。じゃあ津波が来て第一波二波が来てやり過ぎすと。助けに来てくれるまで避難タワーの上で過ごせるような食糧と水とか雨よけとかいうことをしてほしいという風な話があったりします。ただ避難タワーの上は食料を備蓄しているスペースがあるので、その防災グッズをのけると、食べ物のスペースがあります。そこでその数日間過ごせたりといったことがあるんですけども、私の説明の中で大きな手落ちがあるんですけどそれは何かといたら、住民の人が助けに来てくれるまでに過ごせるということ。助けにきません誰も。よくテレビなどで鬼怒川の氾濫があって、川の横で家も浸かって屋上に上がってヘリコプターで救助されてという場面をテレビでやりますから、避難タワーでもみんな助けに来てくれると思うんですよ。これ来ない誰も。避難タワーをテクテク下りてテクテク歩いて避難場所へね。自分の家が津波とかで被災され

ているということであればその足で避難場所に行かんと。車で迎えに誰も来ません。そこがちょっと意識として違う形があるので、市としては避難場所を、家が倒壊したとか津波にあったとかいうことで帰れる人の避難場所を確保していかなければならないと。まだまだこれが足りない状態です。足りないから夜須小学校なんかも遅れて、夜須小学校、中学校の体育館も予測では津波が来るといいますから、防災コミュニティセンター的な避難場所を建設予定なんですよ。それプラスよく言われるのが北部の方の公民館、集会所でも何か置けるスペースはあるので日ごろから例えば細川とこの横町地区、ある一定の人間関係ならこの何人かは細川の集会所へと。そんなことも今後は取り組んでいかなければいけないですけど。今はそんな状況です。

まだ命を守るはいいですけど命を守るということで避難道とか避難タワーを23基のうち18基、20基できてますから。命をつなぐ、それについてはなかなか全てを収容できるものではないところがあるから、土佐カントリーと協定結んでます。津波が来て地震が来て死者も出るという時に公務でもないやろうと、そういう時に協定を結んで幾ばくかのところに例えば仮設住宅とかテントとかクラブハウスでもその中へ避難するとか、あるいは高知駐屯地でも、その敷地のある一部でも避難場所になるとかいう風なものがあるけどまだまだ足らん状況です。それが現状です。

教育委員会でも言われたと思うけど、夜須の保育幼稚でこの北のちょっと方へ逃げるといのは今の現状を言ってもらえたら。その件に関して何年か言われ続けた？

○山下教育次長

夜須の保育所・幼稚園については津波の一時避難場所へということで、北側にあるみかん山とあと西側にある運動広場、そちらのほうへ避難するというような形で避難訓練をしておりました。ただ避難した先に備蓄もない、雨風をしのげるような場所もないということでそういったことを不安だという声も保護者からあつてですね、それに対してちょっと対応が遅れていたというところがありまして。来年度に向けて予算を検討しておったんですけどまだみかん山のほうは急傾斜地の危険箇所ということで避難路が崩れる恐れがあるというようなこともあつてまだ運動広場のほうが第一に考えなければいかんという風に今なってます。保護者とか地域という中で十分な協議をしながらどういったものを備蓄していくのか、後は雨風をしのぐテントというものはどういったものが適切かという協議がまだ十分できていませんので、来年度の当初予算には計上化できないような状況で先にそのへんの協議というものを保護者・地域との協議を進めてできるだけ早く予算措置をして対応していきたいと考えてます。

○百田委員

すみません、発言の訂正。津波浸水地域、夜須の保幼小入ってました。申し訳ないです。

○北村総務課長

防災の関連に入りますとなかなか議論もつきないところだとは思いますが他に。

○山下教育次長

ちょっと補足いいですか。8ページのその他のところのマルのひとつめに、子どもの命を守るためということでおおむね3年以内に津波浸水区域外への学校再編を進めることが望ましいということで3年以内にといいことがかなり現実的には不可能じゃないかという声があるんですけど、

検討委員会の中で具体的なスケジュールとか案を出した時に最低でも5年はかかるということで、5年では遅いという意見が強く出ましてですね。待っても3年だと。具体的なちゃんとした学校再編計画と並行して仮設校舎等そういったことでも対応で3年以内ということで検討委員会としては強く言われてそれを答申に放り込むというような意見になりましたので、この部分は3年以内と。検討委員会としては3年以内に浸水区域にある夜須小中、赤岡小学校、吉川小学校、吉川保育、赤岡保育を区域外の学校に統合していくというようなことが望ましいとして出されています。

○清藤市長

その統合は何区あって、説明もして現地も見られたんですよね。その上のことですか。

○山下教育次長

そうですね。現地というか地図に校区と位置を落として、あと浸水予測等を重ね合わせてということですね。

○北村総務課長

ひとつめの議題についてほかに何かございますでしょうか。

○山本委員

3年以内という次のステップ、3年計画で再編計画の見通しを立てるということでしょうか。

○山下教育次長

3年以内に移る。

○山本委員

ということは計画にかかるスケジュールは駆け足じゃないですか。

○山下教育次長

平行ですね。同時進行でと。

○清藤市長

そこはきちっとしておかないと冒頭私がいったように私の感覚の検討委員会の内容というのはちょっと自分の思ったこととは違うというところがある。ところがこれは3年以内と書いているけれどもそれはもう自治体として学校の施設整備をするときにこれは不可能です。絵に描いた餅です。だからそれをどうとるかということもあるんで、そこをあやふやにしとったらいかんです。これ教育委員会の方に答申がきて、これをね3年以内にと。こういうのがあったから香南市としては全部で10個くらいですかね。10個を3年以内に小中保幼を全部高台へと言った時にちょっと現実的にというのは難しいと思う。

それに統合もあるから、もちろん津波があるところはないところに学校をとというのは望ましい。そういう方向で行政としては取り組んでいかなければいけません。

ところが10個くらい、合併した市であるから思いとか感覚も違うと思うんですね。香我美町の中の香我美小学校へ岸本小学校が統合の場合と合併前の町で違う場合とこれが例えば違う場合は色んな保護者等の意見とか人口動態とか保護者じゃない地域の皆さんの意見とか今までの歴史とかそういうものがあるので、だからそういうこととかもちろん財源的なこともあります。それら全てを総合的に判断した時に望ましいということではあるけれども、それに向けて市としては取り組んでいくけども、それがどんなスケジュールになっていくのか、どんな形なのかというのはこれはまた別問題であるというものじゃないかと私は思うんですけれども、これは教育委員会の方の答申になるので、そこはまた市長部局としっかり連携をしていく必要があると思うんですけども。ちょっとパッと聞いた時にそう思いました。そこはどう対応するかどういう受け止めをするか、先ほども言ったけどあやふやになったらいかん。

○入野教育長

答申がこの3年というのとはとにかく悠長なこと言いよつたらということですけど、実際問題として今市長が言われたように地域住民と色々丁寧なやりとりをしまして、これが一番ベストだろうと納得してもらってやらないかんというのがありますので、こういったことを急ぎなさいよというようなメッセージと受け止めながらそこは丁寧にやっていかなければいかんと思います。

○北村総務課長

よろしいでしょうか。そしたらひとつめの議題については以上で終わります。

○清藤市長

すみません。いつこれ答申されるんですか。

○山下教育次長

今の予定では3月17日に。

○北村総務課長

それでは次の議事に移らせていただきます。2020東京オリンピック・パラリンピック関連事業について生涯学習課長のほうから説明をお願いします。

○小松生涯学習課長

生涯学習課の資料がA4で2枚あります。ひとつが生涯学習課と書いた青い帯で17、オリンピック・パラリンピック関連事業と書いてあるもの、それからひとつが地図でございます。

まずオリンピック・パラリンピック関連事業の目的になります。こちらの資料の左側になりますけども、スポーツの祭典でありますオリンピック・パラリンピックが2020年に東京で開催されることから様々な関連事業を実施していくことで市民にスポーツへの関心を高め、健康増進や体力づくりの意識を醸成していくものであります。

内容につきましては右側になりますけども、1番にオリンピックの聖火リレー、2番にオリンピックの応援イベント、3番にパラリンピック聖火の採火を考えております。

まずは1番目のオリンピック聖火リレーにつきましてですが、高知県では聖火リレーが4月20日・21日の2日間を予定しています。香南市では21日に行われることになっています。香南市で行われる聖火リレーのコースにつきましてはA4の地図にありますけれども、のいち動物公園をスタートしてスカイラインを下りてきて、それから南へ進んでいきましてダイキの駐車場西入口あたりまでの2kmがコースとなっております。このコースをパレード車両に続きまして10名のランナーが聖火を繋ぎます。ランナー1人あたりの距離はだいたい200mということになります。10名のランナーですが公募で選出された1名につきましては昨年12月に発表されておりますけれども、残りの9名につきましてはスポンサー枠で選ばれますので、どこのだれかについてはわかっておりません。またコースの図にありますふれあいセンター西入口についてミニセレブレーションをする予定をしております。その際には選考されたランナーへのインタビューを行う予定をしております。なおコースを実際に走るのは21日の午前中ということはお知らせしておりますけれども、詳細・予定区間につきましてはまだ決まっております。聖火リレーの当日コース沿線を小中学生や市民の方が観覧し応援することでスポーツへの関心を高め、オリンピックを盛り上げていきたいと考えていますので皆さんもご声援のほどよろしくお祈りいたします。

(0“49”28)次に2番目ですが、応援イベントになります。これにつきましてはオリンピックの開催期間中に大型テレビを設置した応援ブースを設けて多くの市民が一緒になって応援できる環境を整えることで市民交流やスポーツへの関心を高めていくイベントを開催するものでございます。大型テレビにつきましては、イベント期間中はそこで使用しますが、終了後につきましては、今、庁舎を建設しておりますけれども、そちらのほうで利用するようになるのではないかと企画管財課と協議をしております。

昨年9月の議会で一般質問がございました応援村というものがございます。オリンピックの組織委員会が公式で行うパブリックビューイングとはちょっと一線を画してまして、パブリックビューイングでやるところ以外の部分で気軽に応援できるような形で取り組むものが応援村でございます。地域の飲食や物販、スポーツ体験等の場により多くの方が気軽に参加して応援できる環境を規模を問わずに整えるということでスポーツへの関心を高めるといって応援村の開設を取り組みたいと思っております。実行委員会を立ち上げるようにしてまして、その実行委員会の関係団体として香南市スポーツクラブ・香南市観光協会・香南市商工会、商工会につきましては香南市以外の南国市・香美市の商工会にも参加していただくよう話を繋いでおります。他にも賛同いただける関係団体と連携しながら応援村の成功につながる取り組みを今後も進めていきたいと考えております。

最後に3番のパラリンピック聖火の採火につきましては、聖火リレーで用いられる火は、高知県内では8月13日から17日までの間に県内の複数の市町村で採火されることとなっております。香南市ではその期間、手結の盆踊りが開催される予定でございますのでその際に行われる灯籠流しの火から採火をするように考えております。その灯籠につきましては市内の障害者施設の利用者等が願いを書き込んだものである灯籠から火を取るように現在関係団体と協議を進めているところでございます。火を取った後についてはランタン等を用いまして市内の公共施設で展示した後に高知市で行われる出発式に持って行って他の市町村とともに高知の火となって聖火リレーに用いられる予定となっております。説明については以上です。

○北村総務課長

ありがとうございました。それではご質問等ございますでしょうか。

○百田委員

1964年の東京オリンピックの聖火はかすかに覚えています。あの時は国道をずっと行って、徳王子小学校から歩いて日の丸をふった記憶がありますけど、今回のケースですとなかなかそういった子供たちに、野市小とですんで、なかなか子供たちの参加は難しいのかなとも思っていますし。

盛り上がる的には全然ないような気がしてますけども、個人の感想ですみませんけども、その辺もう少し盛り上げるような方策があれば何かないかなと思っていますし。

あとオリンピックでホストタウンを5つくらい作るんですよね。高知県に事前練習で。せっかくですんでその辺、食の中で色んな貢献も香南市としてできる面があればぜひお願いしたいなと思っています。

○小松生涯学習課長

まず聖火リレーの当日なんですけども、火曜日の午前中ということで平日なので、なかなかたくさんさんの参加、沿線にどれだけの参加があるのかは見込めないところがあるんですけども、まずスタート地点からスカイラインを下りていくくらいのところにつきましては野市中学校1学年くらいに校長先生を通じてお願いをしております。学校の裏手を上がってくとすぐスカイラインですので、ぐるっと回ると遠いんですけど。あと先ほどおっしゃったとおり野市の小学校とかはルート上に入口がありますので、野市小学校、野市幼稚園、野市保育所の年長さんとかそちらの方の学校とか保育幼稚には一応当日見に来てもらえないかと。国交省のところに保幼小のスペースを確保するようにしています。

あとは56年前がどうだったのか、どんなようにしたのかはわかりませんがランナーが分からないので県内でも県が推薦したタレントさんとかが何人かおられますけど、その方がどこの市町村を走るかもわかりませんので、それによって状況も変わるかもしれませんが。とにかく今はもうトラブルの無いように警備体制を整えて盛り上げていくというところに意識をもってやっていくと。

○清藤市長

全国でどれぐらいの都道府県でやって、県内でどれくらいやるんですか。

○小松生涯学習課長

県内は19。

○清藤市長

全国は。

○小松生涯学習課長

すみません全国は。全国の都道府県がやりますけど、市町村が参加するわけではないところがありますので。

○清藤市長

その百田さんが言ったみたいに学校があるからそれはいいですけど、どうなんですかね。他の一般の人は聖火といったら、例えば1964年とはまた違うところがあると思うんですよ感覚はね。それどうなんですか。

○小松生涯学習課長

当日、香南市の前に香美市がやって南国市がやってと続けてやっていきますので、人によっては見やすいところでみるとか、そうじゃなかったら平日は。

○清藤市長

いや、見やすいとこで見るとか警備がどうか、警備とかそもそもいるようなものなの？聖火を守るという意味での警備？

○小松生涯学習課長

前の56年前のやつも時々映像で流れますけど、途中で火が消えそうになったりとか色々トラブルがあったり。

○清藤市長

そういうことの警備？

○小松生涯学習課長

とかもありますし、途中で走っているところへ乱入したりするケースもあるので、そういうことがないように一般の方がコース上に入ってこないように。それとあと先ほどの説明の中でもランナーの前のパレード車両とあったんですけど、パレード車両でスポンサーさんが色んなグッズを配りますので、それをもらうのにコース内に入ってくるとかを警備して。

○清藤市長

そういうのは例えば県道・市道なんでその時は通行が可能ではない？止めてるわけ？

○小松生涯学習課長

止めてます。

○清藤委員

百田さんが言うように、確かに盛り上がりは出てこんと思う。このコースで行ったら野市町の人は他のところは夜須から見に行くということはないように思うし。前の時は各学校に対して中学校の生徒が聖火持って走って、その後で随行で10人くらいがついて一斉に走っていったんですけど。その時に自分達も学校から国道ふちまで歩いて見に行きたいと全校生徒が。

○清藤市長

これ10人おって1人が香南市だけど、それスポンサーのお得意様の社長なの？

○小松生涯学習課長

スポンサーのところに応募している人の中から選ばれるので自分達には全然わかりません。

○清藤市長

スポンサーに応募した人の中から選ばれる？地元の人じゃないということやね。

○小松生涯学習課長

地元じゃない可能性もありますね。

○清藤市長

高知県のどこか走る、高知県の観光大使とかでもちょっとおったりするけど、それはどこにおっ
てどうかは分からない。

○小松生涯学習課長

広末涼子とかなんとか出てましたけど新聞には。どこで走るかは決まってないので。

○清藤市長

うちの生涯学習課に内々に例えばちょっと前に連絡などなければならないということ？

○小松生涯学習課長

ないですね。

○中元委員

美智子様が一瞬通るといふところがあつて、私もたまたま通りあわせたんなんですけど、どこから集
まってきたんだというくらい人が集まってきたので、毎年やるわけではないこういう聖火リレーを
見にそれこそこの近くの人というよりは香南市内の市バスもありますし、来るんじゃないですかた
くさん。だから整備とか誘導とか安全のためのことも含めてアピールもしたら結構盛り上がるよう
な気がしますし。野市小学校区っていいましたけど佐古も動物園区まで歩いて子供たちが遠足に行
きますので来ると思いますし。そういった世紀の一瞬に立ち会いたいという方が結構多いんじゃない
ですかね。

○清藤市長

これ4月21日って小学校はまだやってる？平日やろ完璧に。

○小松生涯学習課長

やっています。火曜日。

○中元委員

おもしろそうなイベントだと思うのですが、平日の午前中ということでなかなか人を集めるのが難しいかもわかりませんが、手前手前にどンドンしかけていって発信をしてたくさん人に来てもらえるような準備というのは、割とおもしろそうなことをしているのにすごく近づくまでは私たち知らなかったというのが結構多いので、どンドン発信していくことが大事かなと思うのですが。

このオリンピックイベントの応援村というのもどれくらいの期間やるのかとか、テレビもずっとかけっぱなしなのか、この時間帯はこの決勝やるからそれをメインにとかそういう細かいことの発信をしていくと、この時間これをやるから見に行こうと皆さん目的になっていけると思うので、上手に発信してもらったら人が来るんじゃないかなとは思いますが。その辺はいつごろ発表するとか考えてますか？

○小松生涯学習課長

そこは先ほどもちらっといいましたが、オリンピックの組織委員会がパブリックビューイングをやってまして、応援村はパブリックビューイングにかからないところでやりますので。大型のテレビ、もっとそれ以上の大きなやつでやったりとか、事前活動のPRとか行って一般向けにやるのはパブリックビューイング、それ以外の部分で皆さんが気軽に参加できるというところで、市販のテレビを使って飲食も提供しながら市民みんなで応援しながらの場所を設けるということなので、あまりそういうことをやると今度はこっちの組織委員会の方に抵触するので、それを上手にやってくれるよう応援村の事務局とメールでやりとりしてあります。

○清藤市長

それパブリックビューイングやる場所は高知県にあるの？

○小松生涯学習課長

今のところは把握していません。

○清藤市長

高知県にないのに、例えば他のところであるパブリックビューイングがあって同じような応援村をするのだったら抵触する場合も考えられるけども、高知県とかないのに抵触どうこうというのはないよね。だから一応はそういう建て売りですけども、それだからといって案内とか広報とかせられんいうことはないよね。

○小松生涯学習課長

とにかくこれは組織委員会のパブリックビューイングに該当していない所の中でやるというのがありますので、そこは教育委員会含めて。

○中元委員

もったいなくならないように。

○清藤市長

またそれは見せてもらって打ち合わせをして。香南市としての方針を決めてね。これは外に出していこう、これは出していないというのを決めましょう。個々人の感覚でどうこういうのはちょっとやめましょう。

○北村総務課長

ではそういうことでよろしくお願ひします。それではオリンピック関連事業の話はこれで終わります。続きまして教育支援センターの現状について学校教育課のほうからお願ひします。

○森田村塾 岡西氏

森田村塾の取り組みをとということのでできるだけ見えるほうがいいかなと思ってスライドでご説明させていただきます。お手元のほうに資料として今日報告させてもらいたい取り組みの中身を1枚のペーパーとスライドで報告しますのでスライドをお手元のほうに用意してございます。すみません座って報告させてください。それでは早速説明のほうにはいらさせていただきますと思います。森田村塾にお越しいただいた方はお分かりだろうと思うんですけど、兎田の森田ショウマさんの生家のすぐ道路を挟んで北側に、北東にある森田先生のところの、北側にある、平成29年に建てていただきました施設です。今日報告させていただきます中身として森田はどういう風にやっているかという経営のところと入塾状況、施設の説明、活動内容についてアウトレイジ型スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの取り組みの充実ということのひとつ、ボランティアさんとの共同ということのひとつ、それからこれからの充実した条件整備ということのひとつ説明させていただきます。

まず最初に塾状況ということですが、経営方針として子供がこちよくにこにこして通塾できる、それから次のステップにつなぐ場としての設定をしていきたい、それから地域と共同した塾経営、地域と共同ということについては何度もいいますが個人情報のこともありますので慎重な地域共同をしていこうと考えています。目的として不登校や不登校傾向にある生徒の支援をする、現状として入塾生は小学生が10名、中学生が14名、合計24名。入塾生以外の支援生は、通塾生は今いません。入塾せずに入った子もいるんですけど現在はいません。それからアウトレイジ型の支援、これも後から説明しますがアウトレイジ型の支援生が4名、入塾生以外のアウトレイジ型の支援が小学生2名、中学生2名、さらに保護者2名。教職員等が8名。スタッフとしては私を含めて最大で5名。塾長1名、支援員2名、指導員1名、カウンセラー1名。これがアウトレイジ型のカウンセラーになります。さらに研究所の研究生が1名、こういうスタッフで現在森田村塾の取り組みをしています。

少し香南市全体の不登校の状況を説明しますと、26年から30年までデータを出してありますが、黒が継続です。白が新規です。全体で見ますとだんだんと減ってきていると思受けられると思うんですけど、さらに今香南市が力を入れているのが新規をできるだけ出さないようにしようという取り組みをしております。去年から継続の子供たちの支援をしてできれば学校へ帰していくという取り組みをしてるんですけどそれも含めて新規を出さない取り組みをしています。新規の白い部分を見ていただきますとだんだんと減っていつているのがわかっていただけると思います。全体数として51名。不登校と言われる子供たちが51名。これは日数で決まります。1年間で30日以上欠席がある子供たちを不登校という捉え方をするんですけども。

51名。減っていきながらも51名いるという。課題は多いということが現実です。

次に私が今年1年生懸命、スタッフのみんなと話し合いをしてやってきたことが、ひとつが地域共同の見守りということ、それからふたつめが家庭から一步前へ、案外家からぜったい行けませぬ。この子供たちを森田だけでなく少し外へ出れる状況を作っていこうと。そのためには学校スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーと連携協同しながらやっていくことが非常に大切であるという風に考えています。あわせてアウトレイジ型のスクールカウンセラーさんを活用して積極的にそういう子供たちを外に出して、できれば森田に来てそこから学校に帰れる状況を作っていきたいと1年間やってきいこうと決めて取り組んできました。活動時間ですけれども開塾日は月曜から金曜日。開塾時間は9時から14時30分。水曜日は13時になってますけれども来年からは全て14時30分にしたいと考えています。活動内容は育成活動、相談活動、啓発活動、この3つを中心にやっています。先ほど外からの写真を見ていただきましたけど森田の屋内配置図はこんなになってます。入ったところの右側が職員室で左側2つが相談室、個別支援室、それからさらに職員室の奥に行くと学習室、この学習室には子供たちが学習する机が12個あります。その奥がホール、左をずっと行きますとふれあいルームで調理室という風な配置になっています。ここからは外から見たり中から見たりした具体的な写真になっています。森田の全景です。右下が職員室です。現在机が7つ置いてあります。職員が最大で5名おりますので5名プラス色んな方がおられますのでその方が座れるように2つ予備を置いてあります。将来的には来年にむけてもう少し机が必要かと考えています。これが学習室と玄関です。木の建物でぬくもりのある施設になっています。机は左手のほう見ていただきますとパーテーションがついた固定の机が10基。これが相談室と個別支援室です。これ隣同士でドアで仕切られてるので音が聞こえる、それがちょっと課題かなと。同時に使うことがあって。

これがホール、ホールは基本的には子供たちが全体で活動したいときに使います。ふれあいルームは給食を食べたり、そこで会をしたり、それから月に1回の調理実習をします。これは自立に向けてということです。

具体的な活動内容ですが、育成活動、相談活動、啓発活動。育成活動の中には強化学習であったり、体験学習であったり、知的な活動であったり、軽いスポーツであったり、調理実習等があります。相談活動というのは森田に来ていただいて相談を受けることもあったり、多くは訪問します。訪問して相談を支援していたりしています。それから電話での相談もだいぶあります。啓発活動というのは森田村塾について保護者や特に先生方が同じ考えで森田に関わってもらうための取り組みをしていく必要があるかなと啓発活動を行っています。具体的に育成活動を見ていただきますと、教育活動ではこのように子供たちが朝来て自分で今日一日の計画を立てる。その中で時間を決めて学習に入る。ALTの先生も月2回来てくれています。これは地域の方が協力くださっているんですけど、毛筆での学習での取り組み。陶芸の取り組み。子供たちが色んな活動をとおす中で人間関係づくりも含めてやっていきたいとこういう取り組みをしています。

それから調理実習という話をしましたけど、月1回調理実習もします。それから毎日給食があるので、本当は給食の食器を洗わなくてもいいんですけど、子供たちは人間関係づくりが大切になってくる中で、給食の後の食器を簡単に洗ってその時に役割分担で洗っていくという事。それから森田も当然たくさんの子供が来ますので避難訓練をしている状況です。育成活動というのはできるだけ自分達でいろんなものをつくったりできたらいいなと思って大根を植えて、森田の敷地内に畑があるので切干大根を作っているという取り組みをしています。

ライオンズクラブさんにも非常に協力してもらって、毎年もちつきも来てもらっています。それから塾外での活動もできるだけ子供たちが参加できる場所へ行きたいなと思って春は今年も浜幸へ見学に行きました。それからみかんのさと、香我美町にありますみかんのさとへじゃがいも取りに。それからツネイシさんという方が塾の近所なんですけど、この方も畑作られて森田に非常に支援をしておられます。そこへ行ってのじゃがいもの収穫。それから夜須でマリンスポーツを年間4回計画してそこへ子供たちを連れて外へ出て少しでもいろんな活動をさせてあげたいということでマリンスポーツ。それから香我美町の特産であるみかん狩りでの体験。今年は釜揚げ体験も体験させました。子供たちは非常に初めて見るおじゃこの釜揚げにぬくぬくと湯気が立つおじゃこを食べながらこんだけできるんやと経験をさせました。それからこれは一日の流れになるんですけど午後から給食の後はすぐに掃除になります。掃除になった時にあわせて水やりもさせます。それから午後の活動としてはできるだけ人間関係づくりということをベースにしていますのでスポーツだったり、時にはトランプをしたり色んなことを活動しながら子供と話をすると。色んな学校の子供たちが人間関係を作っていく状況を作りたいなと。僕がいた時は入塾生10人でしたけどほとんど会話はありませんでした。それはなかなかできるような状態ではなかったんですけど、できるだけそういうことができる状況にしたいということでやってきました。それが午後の活動で、最後は14時30分に帰りの会で学習室に全員来て。学習室に入れない子もいます。教室で一日過ごす子もいますので、その子はその子で、教室で帰りの会をするということで。14時30分に帰りの会をして、明日の予定とか今日一日の反省とか指導員に出して子供たちにしゃべらすことはほとんどありません。しゃべる事が苦手な子がたくさんいますので順番が来ると後ろに下がって隠れてしまう子がいるので、しゃべらす事は極力避けて帰りの会は指導員がするというようにしています。

育成活動の中にこれウチの活動の大きな中身ですけど森田祭りというのがあります。今年も1月16日にしましたが、子供たちが自分たちでできる限り、自分たちの手作りのものでやっという事で、特にカレーなんかも自分たちで作ったり、全部は作れんけどボランティアさんの協力もあったり、子供たちが中心となってやっというように。今年はみんなの前になかなかよう出ない中3の女の子がカステラを80人分作ってくれてそれを皆さんにふるまったと。その子は非常に明るく、みんなの前にはよう出ないんですけど非常に明るくなって次のステップにしようと考えてくれています。今朝も僕が出てくるときに登塾してきてました。2学期の最初はほとんど来てなかったです。そんな状況で森田祭りも子供たちの良い人間関係づくりができていのかという風に思っています。

それともうひとつ大きな取り組みとして夏休み、長期休養中に森田の入塾生も夏休みに入るんですが、森田の入塾生も含めて森田夏休み塾というのを夏休みにやります。これは長期休業の後になかなか学校に来にくい子供たちが出てくるのがよくある。そういう子を繋ぐためのひとつの手法として森田を活用してもらったらいのかという事で夏休みに入ると同時に今度は夏休み塾のスタートをします。目的はそこに書いてある目的をします。これは実際の夏休み塾で今年は7月23日から終わりが8月27日。子供たちは前にたくさん立てれるのは苦手です。前に立つことが苦手です。なので大人の参加者の方は後ろに座ると。今年は特に山本課長さんに主になってお話をさせていただいて、後私が少しだけ夏休み塾の説明をして終わったという開塾式をして後はこういうふうな学習を日々取り組んでいったということになります。

ボランティアさんとの共同ということですが、いろんな活動をする時になかなか職員だけではできません。もうひとつは職員だけとの人間関係だけでなく地域の方や色んな方との人間関係を作っていただきたいと自分として考えているところで。個人情報のこととかあるんですけど特に民生委員さん、民生児童委員さん方を中心にボランティア活動をお願いをしました。特に料理教室とか色んなところに民生委員さんが活動に入ってもらってます。その時にただ来てくださいというだけでは来ませんので全ての地区、5つありますけど全ての地区の民生児童委員さんのところに行って説明させてもらいました。森田としてはこういう取り組みをしているので是非協力してくれませんかというお願いをしてほとんどの地域の民生委員さんが協力をしていただけて色んな活動ができたと思っています。ほんとにありがたいなと思っています。

相談活動としては先ほどもいいましたけども来塾、訪問、電話。一番多いのは訪問です。訪問で相談を聞くのが一番多いです。来塾もたくさんあります。特に来塾は保護者の方が来られて相談にのってほしいということで。当然繋ぎは直に来られるわけではなくて、なんとか先生であったり、カウンセラーの先生であったりするわけですが、来塾されて相談をしてもらうこと。それから電話で相談というのは件数的にはそんなに効果はありません。なかなか見えないので、色んな中身が見えないので電話で受けて来塾されるか行くかという形が多いと。たまに電話の相談もあります。

それから啓発活動ですが、先ほどもいいましたように森田の取り組みということの色んな方に知っていただきたい。特に学校の先生方に知っていただきたい。先生方当然分かっているんですけど温度差が多少あるというのが現状です。森田の状況を十分把握されてる先生と今広域的な人事が多いのでなかなか分かっておられない先生が多い。そういう方にやはりきちんと知ってほしいということで今年からそこに書いてありますようにウチのスクールカウンセラーと私とで学校訪問させていただいて森田の状況を説明し支援活動のための情報共有をしながらよろしく願いますということで、先生方に周知をお願いしますということで今年回らせてもらいましたし、今後もしていきたいと考えています。

それから先ほどもいいましたけど民生委員さん方の支援協力をしていただくための説明もさせていただいてます。そういう啓発活動もしています。

ここでアウトレイジ型のスクールカウンセラーについてお話させていただきたいのですが、アウトレイジ型というのは森田村塾に配置されているスクールカウンセラーがアウトレイジ型のスクールカウンセラーと言います。各学校にもスクールカウンセラーさんはおられます。その各学校のスクールカウンセラーさんとうちのスクールカウンセラーさんが連携協同して子供たちの支援をしていくのがアウトレイジ型のスクールカウンセラーです。例えば学校に配置されているスクールカウンセラーさんが女性であった場合にウチのカウンセラーは男性なので保護者と子供とのスクールカウンセラーの相談を別々にしていくとか色んな形がとられます。そういうことで上手に学校配置のカウンセラーさん、うちのカウンセラーさんを上手に利用させていただいて良い方向の支援ができていただいていると思います。今言っているアウトレイジ型の取り組みがあればこそ今年14名という新たな入塾生が増えた。実は増えた中に状況的には非常に厳しい子供たちがいます。学校の先生方の顔が見えなかったりする子供たちが今ウチに来ています。中学校3年生なんですけど中1までは学校に行っているけども途中から学校に来なくなって先生方がなかなか会うことができないう子供がいます。その子が学校の取り組みとスクールカウンセラーの取り組みでウチのカウンセラーにつないでウチに来れだす子供が一人。まったく誰が行っても、ウチのカウンセラーは会えたんですけど、なかなか外へよう出れなかったという小学生の男の子も2学期の後半からウチ

へ来れるという状況で非常によいアウトレイジ型のカウンセラーの取り組みができていているという風に思っています。実はアウトレイジ型のカウンセリングはパンク状態で週2日しかウチにきてません。後は個別の学校へ行ってますのでパンク状態です。持っている数がものすごい数ありまして、これはお手元の数字は見えないと思いますけど、簡単にいいますと半分から上は入塾生の状況。半分から下はアウトレイジ型のカウンセラーが活動した状況を現わしています。トータル167となっているのですが、今日もウチにきています。だいたい一日に4人、訪問なり、来てカウンセラーをするんですけど移動時間あわせると終わりは4時、5時、6時になります。そういう時にポッと入ってくるとそこから延々30分40分電話相談ということになるのでウチのカウンセラーは帰るのが4時15分終わりがほとんど帰るのが6時30分、そんな状態が月、水続いています。本人にとっては非常に申し訳ないんですけどカウンセラーさんとしては非常に良いカウンセラーさんで良い取り組みをしてくださって良い繋ぎをしてくださってますので今後ひろげていきたい、できればウチへ来る回数をもう少し増やせたらいいかなというお願いをしているところです。

最後になりますけど充実に向けた条件整備ということになりますけど、先ほどもいいましたけど学習室が子供たちが座れる机がありません。現在入塾している子供が24人といいましたが、学校に復帰した子供が4人です。来れない子供も何名かおるんですけど現在16~7人来ています。平均すると8~13名が毎日ウチに来ています。ということは13個しか座る場所がないということになります。来年なんとかしていただいけませんかと委員会の方にお問い合わせをさせていただけるということになったので何とか今の条件でクリアできるかなと考えています。それ以上のことは僕もいいませんが何とかかなりそうな方向でお願いがいつているそうです。それとせっかくいい施設なので他が子供たちの教育相談活動をウチでやるのがベストじゃないかなと私は思っていて、そういう話もさせてもらっています。せっかくあるいい施設を十分活用するように考えていかないといけないのかなと思っています。今後の課題としては森田に行かしていただいて気付いたことなんですけど、先ほど議題の前に色々お話をしよって広域的な取り組みにしていくためには教育委員会だけではなくて市長部局も含めてというお話を市長さんもされてましたけど、最近そういうことを考えることが多くなりました。不登校のことを考えだして、ひきこもりということがあると思うんです。それは成人になってからの課題だと思うんですが、やっぱりそういうところまでを考えて、どこまで見れるかは別として、点を線にしていくことが大事なあと僕は今自分自身の課題かなあと考えています。そういうことを今後なにかよい方法でできたらよいのかなあと考えているのがひとつと、せっかくいい、高知県で一番いい施設です。こういう施設は他にありません。ほとんどが教育研究所の中、どこかの庁舎の中にあるのがほとんど。ところがウチは独立していて駐車場もあって子供たち、保護者の方も来て相談しやすい環境にある場所です。そういうところを全部が大いに活用の場にしたらどうかなと私は今思っているのがひとつの課題です。

それからひとつがアウトレイジ型のスクールカウンセラーさんの勤務について先ほども言いましたけど、ちょっと無理なお願いをしているのでなんとか今の状況を打破できるようにできたらいいのかなと考えています。こんな1年間の取り組みで、今、中3が7名います。7名中4名が個別支援。それから間もなく公立の試験を受ける子もいます。なんとか100%ウチから次のステップに行けたらいいのかなと考えています。学校に返すことが最終的な目的にはしてるんですけど、そういかない子もいますので、そしたらウチから次のステップに行けるようなことを考えていこうということで学校との連携協同しながら校長先生と学校の先生と話をしながら次のステップに行けるような取り組みをしているのが今の状況です。

ちょっと長くなりましたけどそういうことで森田の取り組みを一生懸命やっているということでご理解いただいて色んなご支援いただけたらありがたいなと思います。ありがとうございました。

○北村総務課長

ありがとうございました。それでは質疑ご意見等ございますでしょうか。

○山本委員

ひなまつりに行かせていただきましたけど、カステラをいただきましてすごくらめとふわふわのカウントがすごくおいしかったです。先生の、塾長のお話を聞いてそういう経緯だったんだなということを知りました。学校に行けない子供たちを少なく、だんだんと数としては減らす方向に行きながらも、しっかりと森田ですくっていきながら置いてかないということが先生・相談員さんたちの熱意でこうやって実っているということが今のお話でよく分かりました。

あと、ひきこもりのお話をされましたけどもすごく最近気になっているのが、15の春を目指して教育委員会が香南市と取り組んでいる取り組みが、15以降の今香南市全体でどれくらいいるのかは分からないですけども、私も身近に働いていない親の家において外に行けないひきこもりになっている20歳以上の成年を何人か知っているのも、そういうこう15までの支援があってその後で壁が経済的自立ですよ、これに何とか繋がっていかないのかなとすごく思っていて、数でいうと結構な数じゃないでしょうか。香南市全体でいうと働いていない人たちに就労支援に何とか繋がらないかと、森田村塾でということではなくて香南市として支援はないのかなと思っています。何とかいい方法はないのかなと今あらためて感じました。

○森田村塾・岡西氏

2名の成人の方が相談に来られました。ひとは女性でした。ひとは男性でした。ひとは直接来られました。もうひとはお母さんが電話で相談されました。支援体制はあるだろうと思うのですが何らかの方法では。例えば南国にある支援施設、そこへ直接、そこを辞めると次の支援にはなかなかならない、続かない現状がある。ただそういうところがなんかこうせっかく線で結ばれたのがそこを辞めてしまうとその線が消えてしまうところを何とかする方法はないのかなあと思ったりしているところです。今、評価を始めていって面談をしています。昨日3年生の保護者の方と面談したんですけども、お話をさせていただいたのはその方の次のステップは決まったのでおめでとうございますというのを踏まえて今後のことをどういう風にしていくか繋がっておきたいとお話はしました。次のステップに向かった子が仕事をしだして前へどんどん進んでいったらいいと思うんですけど100%そうでない子がいるというのは現状なので、そのところはなんとかしたいなと。誰が今できるというのは何も見えてません。色々見ているところです。何かできたらいいのかなと思っています。せっかく森田にこらしていただいたのでそこから何か発信できたらいいのかなと思っています。

○入野教育長

その大人の2人は、中学小学時代も不登校の方がずっと？中学校を出てからずっと。

○森田村塾・岡西氏

男性の方は高等学校を卒業したかは聞いてないですけど、女性の方は香南市。その方は通信で高校の卒業をもらいました。今やっと外に出て働けるようになったと。だから私のところへ来れたと。

○清藤市長

それは状況に応じて、岡西さんが言われたことはこれからの課題ですので、ひょっとよかったら森田村塾が事業主体とか実施主体ということでなくて、それはどこがどうなっていくかはわからんし、市町村か県単位かはわからんけど、ちょっと岡西さんのほうで社会人になって森田村塾でいたからこそ色々分かることもあると思うので、どういう形が一番いいのかちょっとこうペーパーにまとめてもらったら。まとめるというか森田村塾がするというじゃないし、例えば議会でもそんな質問があったりするんですよ。若者サポートステーションもあるけれども、じゃあそこの関係とか自治体が補足というかつかんでいる情報がどうなのかとか色々あって全てが不完全な状況が今やと思うんですよ。農福連携とかもあって、これは手結山の農家の人だったけどそれはそんなんそこを使ったりしてますけど、色々苦労されたこともあって、やっぱり色々課題はあると思うので。だから事業主体が森田村塾ではなくてもうちょっとぼわーっとこういう課題があって市もそうやし県もそうやし、あるいはこれの制度としてせんといかんところもあるんでね。

自治体で香南市で大人の方のひきこもりなんかも把握できてない全部。それは若者サポートセンターに来た人の人数はわかります。けど把握できていないという状況もあるので。まず出産の前から市としてわかっておくということでもわかるという仕組み制度を作りましょう。そんなことやからここ、市だけのことじゃないです森田村塾だけじゃないです。今後どうしたらいいのかこんなことがいいんじゃないかという風な軽い気持ちのなんかこうペーパーをつくっていただいたらと。

○森田村塾・岡西氏

今、市長さんが言われたように、把握ができていないという面があると思うんです。把握ができていないというのは追跡というか、例えば森田を卒業してそっから出た子が高校行ったり、就職したりするその過程の追跡ができてないと。今回も保護者の方をお願いしているのがそういう意味でなんらかの課題を持たしてよと軽い気持ちで。

ほんとはそこにねらいがあるんですけど軽い気持ちで。軽い気持ちでお願いをしています。できたらまた学校行きだしたら手伝いにきてよと。一人はカステラの子は来年もカステラ作ってよとお母さんが頼みました。了解もらえたり。そういうことをつなげていけばなんぼかは把握できていくのかなと思ってる次第でそのことを森田だけでなく、例えば福祉事務所であったり色んな関係と連携しながらやっていくことがこれからは大事かなと思います。

森田の子供たちがよい方向で行ってくれたらいいんですけどそうじゃない場合もあるのでサポートしたいというのもあるんです。

○山本委員

さっき発言したのは森田を卒業して後がない問題というよりは私の知っている人は高校卒業して大学入学したら途中でやめてしまった、大学卒業して就職したがその後就職したそののちに社会生活がうまくいかなくて結局ひきこもりになっているという、そういうちょっとした発達障害とか

人間関係に課題のある人じゃなくて、成人した後に社会に適応できなくなったという人も含めて、たしか記憶がはっきりしてないですが、佐賀県だったと思うんですけど第一次産業に今つく人に少ないじゃないですか、だんだんみかんにしる特に野市町なんかはどんどん田畑が荒れて耕す人がいなくなってます。市内全部そうだと思うんですけど。その第一次産業、農業、林業、漁業のような香南市の豊かな自然がだんだんたりなくなっている現状と、その人間関係にはうまく適応できないけどひょっとしたらそういうところに就労する可能性があるんじゃないかと。それをうまく繋いで佐賀県だと思んですけど農業振興プロジェクトを立ち上げていると、ネットでちらっと見たことがあったんですよ。それは森田の先生がこのくらいしようということじゃなくて香南市としてやっぱりみんなが働いて経済的自立をして税金も納めて町が豊かになっていく、人数はどんどん減っていくんですからその辺をもうちょっと今見てなかったところであれば見ていったらどうかなという提案でした。

○清藤市長

宮崎委員さんが議会でも質問されて、農福連携とか今よく言うんですけど、ひきこもりとか色々な人を農業をどういう仕事をしてということなんですけど、基本は何かというと農業事業者の方の理解とか思いが必要で、例えばひきこもりの人とか来週の月曜日から朝9時にきてこうこうすると決めるとする、9時になっても待ちよつても来んとかうなって結局来んから困るけども、そこで理解があるよね。来んかったら来んでどういう対応をするかとか。色々な自治体でも色々なことやってまして。色々なことあるけども、ただそこらへんどういう形でやるか調整していくのかは今後の課題です。

こないだ香南市のある若手農家の人でそういうひきこもりの方を雇用してという積極的にしていこうという人がいまして、色々ゆっくり話したんですけど、どういいますか世俗的になりますけど外国人の方を雇用してどうこういう方もいますけど、僕は地域のひきこもりとかいう方をねどんどん人前に出て色々言うのがちょっとあまり得意やない人を雇用して自分はやっていきたいという風な話をしましたけれども。そこは色々な行政としての支援策もいると思うんですけど、要は一番は事業者の方の理解とか思いということになっていくんで、そこをどうしていくか結局はそこなんですわ。だからそういう事例とか香南市にこんな方もいるということをやるとか事例とか外へ出していく、広報していく、そんなことをしていきたいと思っています。

○山本委員

個人の事業者にそれをできるかといったらなかなか難しい。段取りをしてできることだと思います。

○清藤市長

そうなんです。人手が足りないということで事業者の方はしてくるけど、今日何時から収穫に取り掛かろう、待ちゆうけどいつまで待っても来なかったとかうなったらね、そこでどうしていくかというね、そこが一番難しいところです。

○北村総務課長

他に何かございませんでしょうか。

○百田委員

先ほどのような感じの話で、人生支援の中で出てました小学校中学校の不登校はずいぶんと減っていていると出ているけども、それ以降中学校高校よりもっと上の子をどのように把握するか福祉事務所として民生委員に見回ってもらうとか色々ありますけど。この50何名が保健室登校で30日より少ない人は数に入っていないですね。いうたらこの倍くらいは人数がいるんじゃないかなと思います。数値の変更をよろしくお願ひしたいと思ひますし、今だいたい個人で自転車等車でもう少しいろんな機械を使えれば家から一歩出れる人もいるんじゃないかなとも思ったりします。そちらの方も検討をしていただけたらなと思ひています。

あと一点、これは生涯学習課ですけど、史跡の方の保存はどのように。森田の。

○小松生涯学習課長

12月に視察をして保存の分の調査をしています。

○入野教育長

今の話ですけどやっぱりどっかで繋がりがあるようにしちよくのはすごい大事で今お二人の方もよく森田に相談に来れたなと思ひて、そうやって自分から来れるというような森田村塾の雰囲気等もすごく。

○森田村塾・岡西氏

自分から来たわけではないです。ちょっとそういうしんどい方は自分から出てくるのは難しい。勇気があります。実はそこに繋がりがあつたんです。だから地域との連携が大事じゃないかなと思ひています。あんまり言われませんが一人は先生です。両方とも先生は先生なんですけど、僕とつながりがある。その先生にたまたま電話したら実はこういう事なんだよと情報くれてお母さんに話がいって。お願ひというかお話ししたのが、もしあれやったらウチにぶらっと様子を見に来るだけでもいいですので来ませんか。なんぼか働くこともできるので。あんまり色んなことをいうとちよつとしんどいので本人が言うてくるまで。それから女性の方は来月、その方が新たなステップを踏みたいと自分のような仲間がいるのが分かつた。特に女性に対する支援が弱いとその方は言われてました。

そういう良い方法はないのかなと模索されているようです。大阪まで勉強に向かいました。日帰りで。その帰りに僕にLINEくれたんですけど良い勉強になりましたと。また情報くださいねというてありますけど。そうやって点をつないでいくことが大事と思ひうんで、なんとかこちらからも微々たる情報を、できる状況をつくっていきたい。そりゃきてもらえるのが一番良いですけど、なかなか勇気がありますので、我々が状況をみて、そこでそれぞれ入って行ってあげて情報を聞いて線にして面にしていったらいいかなと思ひています。かなりおいでるとその方も言われてました。ただ僕自身も把握していないのでどれだけの人数かは分からないですけど塾内にも2人おるわけですからかなりの数いるかと。

○入野教育長

児童生徒に対しても国のほうも結局昨年10月の通知のほうで結局学校へ行くことが全てよし

というか学校復帰が目的ということじゃなしにもっと多様な場での成長の場を提供することが大事だとそんな風に。森田村塾もそんな風に多様な支援をしているということで昨年から比べたら、これまでも子供のことを思って学力保障等を提供してるんですけどそれすらハードルに感じる子からおったりするんで、そこはもう変わっていることで人数も増えてるんじゃないかと思います。

ただ、全体の数が減って森田の数が増えて学校から森田のどっかで繋がってたらいいんですが、それでも小1、中1はなかなかどころも繋がりにくい子が市内にいるということで、それは何とかの形で繋がりはしていかなければいけないし、それからあと山本先生が言われるように結構小中大丈夫やってもその後つまずいた方がいる。なかなか後ろ、小中不登校やってそういう支援センターとか繋がっていきゆ方がまだ、とっかかりの部分がどこかにあるんだけど、どっかで大人までは順調やったけども、そこで躓いた方が本当に社会と繋がりがなく深刻な状況だと危惧してるので、そんなことも考えていかないとと思います。

○清藤市長

アウトレイジ型スクールカウンセラーは結局その足りないのですか？

○森田村塾・岡西氏

日数的に限度はあると思うんですけど、2日ではほんとに大変です。できれば1回どこか来てもらえたら。

○清藤市長

それは森田村塾行きゆ方が他にも行きゆわけですか？

○森田村塾・岡西氏

ウチの入塾生のある程度のカウンセリングをしながら全学校の保護者・子供・先生方の相談を受けています。

○清藤市長

これ学校教育課長に聞いたんですかね。令和2年度も県のほうも変わらないんでしょ。対応変わらないんでしょ。

○森田村塾・岡西氏

そう聞いております。

○清藤市長

これ変わるようになったらいいわけですよ。3年度から。

○入野教育長

ただ1名来年教育支援センターへ県のほうからスクールカウンセラーではありませんけど教員OBでそういう児童生徒への対応可能な方を1人、週3日で派遣をしてみると。この方スクールカウンセラーではないですけどアウトレイジ型の支援も可能だと思いますので。まったく同じことができるかはわかりませんがそういう形での支援をしてもらいようにはなっています。ただこれも継

続いていつまでやってくれるかはわかりません。とりあえず来年は香南市の教育支援センターのひとつのモデル、支援センターということで話が進んでいるところです。

○森田村塾・岡西氏（1 “5 9” 4 5）

カウンセラーさんも3日来てもらったら最高に助かります。

○入野教育長

カウンセラーさん自体も不足しているんじゃないですか？手一杯では。

○森田村塾・岡西氏

今おいでの方は非常にいいカウンセラーさん。本来のアウトレイジ型ができる、アウトレイジで頑張ってくれてる先生です。僕も気合を入れて県に行かしてもらいました。その時に県に同じことを言われました。現状維持ですと。

○清藤市長

だから秋の市長会というかその提案をね提案というかその必要だけど機能を充実してほしいと。いった時に何もなかったんですよ。その令和2年度どうするかというのが。だから全然反応がなかったの知事が変わったらこれほど違うかなと。正直な話そう思ったんですけど。現実的にはもっと機能を増やすと森田村塾もいるけれども学校なんかもあるでしょ。

○入野教育長

学校カウンセラーさんも週1回ありませんね。

○森田村塾・岡西氏

要望があったところは全部入れると。それがパンク状態。

○清藤市長

そういう状況をこっちもお聞きしますと、なぜ現状維持なんだといえますのでこっちも。

○北村総務課長

ではよろしいでしょうか。そしたら議題として準備されていた3件につきましては以上となります。その他につきまして事務局の方でとくにございませんが、委員さんのほうで何かございましたら。そしたらなければ第3回の総合教育会議を終了したいと思います。次回年度明けまして5月頃予定しておりますのでまたご案内させていただきますのでよろしく願いいたします。それでは以上で終わります。